

種生物学会ニュースレター

The Society for the Study of Species Biology Newsletter No. 52



会長就任のご挨拶 1 / 第51回 種生物学シンポジウム（宮崎）のご案内 2
第50回 種生物学シンポジウム（東京）の記録 7 / 役員選挙の開票結果 9
福島県只見町ブナセンター「河野昭一先生企画展」“只見のブナ原生林は世界の宝” 参加報告 9
事務局からのお知らせ 10 / 会計報告 11

会長就任のご挨拶

陶山 佳久

本年2019年1月から、新たに種生物学会会長に就任いたしました東北大学の陶山佳久です。副会長の西脇亜也さん（宮崎大学）、庶務幹事の富松裕さん（山形大学）、会計幹事の堂園いくみさん（東京学芸大学）を中心とした役員のほか、選挙で選ばれた14名の幹事の皆さんとともに、これから3年間にわたって種生物学会の運営を進めて参ります。就任にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

令和の時代が始まった今年度は、種生物学会にとってもまさに新たな歴史の1年目となりました。実は私が本年から会長を引き受けさせていただくことが決まった4年前には、この種生物学会は財政的に存続の危機に立たされていました。その状況は深刻で、最悪の場合には、もしかしたら私が会長の時代にこの歴史ある種生物学会を解散するか、英文誌を廃刊するという決断をせねばならない可能性すらありました。ところが、奇跡的と言っても良いタイミングで大きな変革があり、昨年度から当面の経済的問題がほぼ解消するに至りました。その結果、この問題による学会および英文誌存続の危機を、一気に脱することができたのです。

このことは、すでに総会やニュースレターでもご説明させていただいておりますが、この大変革をもたらした要因は、学会としての支出の大部分を占めていた英文誌発行のための経費負担が、以下の理由によりほぼゼロになったことによります。すなわち、種生物学会英文誌である Plant Species Biology (PSB) の出版について、日本生態学会の Ecological Research 誌、個体群生態学会の Population Ecology 誌とともに、3誌一括で Wiley 社と新たな出版契約を結んだことによるものです。この契約では、各誌の出版による出版社側の経済的メリットを高く評価していただき、学会側に求める出版費用をほぼゼロにまで抑えていただきました。これは、国際誌としての PSB 誌の評価を直接反映しているものでもあり、これまで PSB

誌を育てていただいた皆さまの努力の賜物であると言えます。この契約変更により、種生物学会としての支出経費全体が激減することになり、財政状況が一気に改善したというわけです。また、もともと種生物学会としては、PSB 誌を Wiley 社から出版していたこともあり、この大変革後も PSB 誌をほぼこれまで通りの形式で出版することができており、種生物学会としては本当にありがたい変革となりました。期せずして、PSB 誌のインパクトファクターがついに2を超え(2.077)、新たな形式での英文誌出版の門出を祝うかのようなニュースとなりました。このような財政状況の改善をいち早く会員の皆様のメリットとして反映させるため、すでに本年度から会費を半額にする変更を実施しており、一般会員は12000円から6000円に、学生会員は6000円から3000円に値下げさせていただきました。今となっては、学会存続の危機が嘘のような話ですが、この愛すべき学会を存続させることができたのは、何よりも嬉しいと同時に、正直なところ本当にホッとしております。もちろん、存続の危機を脱したからと言っても、その幸運に甘んじることなく、種生物学会らしくエネルギーを消費する運営を進めていこうと思っております。

さて、私が初めて種生物学シンポジウムに参加したのは、講演者として招待していただいた1998年（第30回）の鹿児島でのシンポジウムでした。『森林植物の繁殖構造と集団分化：分子マーカーの有効性と限界』と題するシンポの内容は、当時としてはいち早く新技術を取り入れようとする意欲的なものだったと言えます。技術革新のスピードが早いこの分野としては、当時の内容は今や古典的な感がありますが、その内容は後に『森の分子生態学』としてまとめられ、単行本の形式で発刊された種生物学会和文誌の2冊目として好評を博しました。当時、初めて種生物学シンポに参加した私にとって、種生物学会の雰囲気は、それまで感じたことのない極めて魅力的なものでした。本学会

の説明文として使われている『進化生物学、植物分類学、生態学、育種学、雑草学、林学、農学、保全生物学などさまざまな分野の研究者が、分野の枠を超えて交流・議論する場』が、そのまま具現化されていると感じ、何よりもそのちょうどいいサイズ、合宿形式、議論のしやすさは大きな魅力で、すぐに学会入会の手続きをしたことを憶えています。現在でもその良さは踏襲され、若手とベテランが夜遅くまでポスターの前で議論する姿が、種生物学シンポの象徴的な光景として息づいていることを何よりも嬉しく思っています。

種生物学シンポジウムは、昨年度に第 50 回の節目を迎え、令和元年の今年、新たなスタートして第 51 回目を開

催します。学会運営の姿勢としては、本学会の要であるこのシンポを最も重要視した上で、新たにスタートした英文誌の『Plant Species Biology』、単行本として発行している和文誌『種生物学研究』を本学会の 3 本柱として、ますます魅力ある学会として発展させていく所存です。まずは、宮崎で開催されます第 51 回種生物学シンポジウムに多くの方にご参加いただき、会員みなさまの力で学会を盛り上げていただきますよう、心からお願い申し上げます。皆さんと一緒に、より魅力的な学会に育てていきましょう。これから 3 年間、精一杯努力してまいりますので、どうかよろしくお願いたします。

第 51 回 種生物学シンポジウム (宮崎) のご案内

<https://sites.google.com/view/sssb2019symposium51>

51 回目となる種生物学シンポジウムは、2019 年 12 月 6 日 (金) ~ 8 日 (日) に宮崎県宮崎市で開催されます。熱帯林、先端技術、サンゴ礁などワクワクの内容です。ポスター発表にも十分な時間を予定しています。宮崎での開催は初めてです。会場となるコテージ・ヒムカはシーガイアリゾート内にあり、合宿形式での学会開催に最適です。また、お子さんやご家族同伴の参加も歓迎します。

● 全体のスケジュール

12 月 6 日 (金)

- | | |
|-------------|--|
| 13:00-18:00 | 各種委員会 |
| 16:00-18:00 | 受付 (ロビー)・ポスター貼付 |
| 18:00-19:00 | 夕食 |
| 19:00-20:00 | プレシンポジウム「サンゴ礁生態系における生物多様性の研究 ~共生菌から生きる化石、サンゴ捕食者の種分化まで~」 安田仁奈 (宮崎大学) |
| 20:00-22:00 | 交流会 (ポスター会場にて) |

12 月 7 日 (土)

- | | |
|-------------|--|
| 7:30-8:30 | 朝食 |
| 8:30-10:00 | ポスター発表 (奇数コアタイム) |
| 10:00-11:30 | ポスター発表 (偶数コアタイム) |
| 12:00-13:00 | 昼食 |
| 13:00-16:00 | ミニシンポジウム「熱帯林の種生物学」 企画者: 矢原徹一 (九州大学) |
| 16:00-16:10 | 写真撮影 |
| 16:10-17:30 | 片岡奨励賞受賞講演 (予定) |
| 17:30-18:30 | 種生物学会 2019 年度総会 |
| 18:30-19:00 | 「日本酒と焼酎の話 (予定)」 副島顕子 (熊本大学) |
| 19:00-20:30 | 懇親会 (片岡奨励賞・PSB 論文賞・ポスター受賞者授賞式) |
| 20:30-22:00 | 交流会 (ポスター会場にて) |

申込み締切はすべて 11 月 11 日 (月) です

参加・宿泊申込み (事前の振り込みが必要です)
ポスター発表の申込み (要旨を含みます)
託児室利用申込み

12月8日(日)

- 7:30-8:30 朝食・ポスター撤去(8:30まで)・チェックアウト(10:00まで)
8:30-12:00 **和文誌編集委員会企画シンポジウム「使ってみよう先端技術!—オミクス解析と形質測定で迫る植物の生き様—」** 企画者:佐藤安弘(科学技術振興機構さきがけ/龍谷大学)・村中智明(京都大学)
12:00-13:00 昼食
13:00-15:30 **和文誌編集委員会企画シンポジウム(つづき)**
15:35 解散
15:39 路線バス(空港行き)出発
15:50 送迎バス(空港行き)出発

● **ミニシンポジウム「熱帯林の種生物学」**

12月7日(土) 企画者:矢原徹一(九州大学)

種多様性に富む熱帯林は古くから研究されてきましたが、いまなお未知のフロンティアです。現在もたくさんの新種が発見され続けていますし、驚くほど多くの生物間相互作用が次々と明らかになっています。第51回種生物学シンポジウムでは、熱帯林の種生物学について、分類学、生態学、保全遺伝学の枠を越えて議論したいと思います。

- 13:00-13:10 趣旨説明 矢原徹一(九州大)
13:10-13:45 「熱帯林生態学の新しい展開」
北島薫(京都大)
13:45-14:20 「熱帯多雨林における一斉開花と種子捕食」
保坂哲朗(広島大)
14:20-14:55 「南ベトナム熱帯山地林の種多様性とフェノロジー」
永濱藍(九州大)・田金秀一郎(鹿児島大)・陶山佳久(東北大)・矢原徹一(九州大)
14:55-15:30 「遺伝子発現によるフェノロジー研究」
佐竹暁子(九州大)
15:30-16:00 総合討論

● **和文誌編集委員会ミニシンポジウム「使ってみよう先端技術!—オミクス解析と形質測定で迫る植物の生き様—」**

12月8日(日) 企画者:佐藤安弘(科学技術振興機構さきがけ/龍谷大学)・村中智明(京都大学)

NGS技術の発展に伴い、ゲノミクスやトランスクリプトミクスなどの手法は野外生物学者にとっても身近なものになりつつあります。これらのオミクス技術は、表現型を定量するための独自技術と相まって植物科学の進歩に貢献しています。かつての最新技術が一般技術となる中、これらの技術はいかにして我々の進化・生態的興味に答えてくれるのでしょうか?本シンポジウムでは、独自の題材と要素技術を駆使して植物科学に取り組む方々を招待して、遺伝子の網羅的解析から植物の生理応答を通じて高次の表現型(生存や繁殖)までの接点を探ります。

プログラム(発表順および時間は仮)

- 8:30-8:40 趣旨説明 佐藤安弘(科学技術振興機構さきがけ/龍谷大学食と農の総合研究所)
8:40-9:30 「ゲノムワイド関連解析による異種花粉識別分子の発見」
藤井壮太(東京大学大学院農学生命科学研究科)
9:30-10:20 「ゲノミックセレクションによる作物育種の可能性—ソバを例に—」
矢部志央理(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)
10:20-11:10 「ゲノムとトランスクリプトームでこじ開けたる。Vigna属野生種の耐塩性進化」
内藤健(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)
11:10-12:00 「光るウキクサで時計を見る:限界日長適応の基盤としての「概日」時計」
村中智明(京都大学生態学研究センター)
13:00-13:50 「なぜ青いバラは咲かないのか、アントシアニンによる多彩な花色の発現機構」
吉田久美(名古屋大学大学院情報科学研究科)

13:50-14:40 「異科接木の分子機構と技術開発」

野田口理孝 (名古屋大学生物機能利用開発研究センター/生命農学研究科)

14:40-15:30 総合討論 (コメンテーター: 奥山雄大 国立科学博物館)

● 参加・宿泊申し込み【11月11日(月)まで】

シンポジウムウェブサイト上の「参加申し込みフォーム」からお申し込みください。シンポジウム参加に関わる費用を振り込んだ後に、参加申し込みフォームの入力を行ってください。

1. 参加費用の概要

[種生物学シンポジウム参加費]

学生会員 4,500 円 学生非会員 5,500 円

一般会員 9,000 円 一般非会員 10,000 円

[宿泊費]

10,000 円 (1 名 1 泊朝食 5,000 円で 2 泊) ※ 4 名 1 室に男女別で宿泊します。

[懇親会費]

学生 3,000 円 一般 6,000 円

[食費]

12 月 6 日夕食 1,000 円

12 月 7 日昼食 750 円

12 月 8 日昼食 750 円

※ 学生会員で全日程参加の場合：20,000 円 (学生非会員はプラス 1,000 円)

内訳：参加費 4,500 円、宿泊費 10,000 円 (2 泊朝食付き)、食費 2,500 円、懇親会費 3,000 円

※ 一般会員で全日程参加の場合：27,500 円 (一般非会員はプラス 1,000 円)

内訳：参加費 9,000 円、宿泊費 10,000 円 (2 泊朝食付き)、食費 2,500 円、懇親会費 6,000 円

※ 上記の日程以外での参加の方は、「シンポジウム参加申し込みフォーム」より申請してください。

※ 現在は非会員の方でも、参加申し込み前に入会した場合、学会員と同じシンポジウム参加費を適用します。種生物学会への入会はオンライン (<http://www.speciesbiology.org/entry/form.php>) で行うことができます。

2. 振込先

種生物学シンポジウム参加費等を下記の口座にお振り込み下さい。本シンポジウム専用の払込用紙は準備しておりませんので、郵便局備え付けの払込用紙をご利用ください。一旦振り込まれた参加費は返却できませんので、ご承知おきください。

【郵便局での振り込み (ゆうちょ銀行振替専用口座)】

口座番号： 01720-3-171225

加入者名： 51 種生物シンポ

よみがな (ゴジュウイチシュセイブツシンポ)

【ゆうちょ銀行以外の金融機関からの振り込み】

店名： 一七九 (イチナナキュウ) 店 (179)

預金種目： 当座

口座番号： 0171225

※ 振り込み後に受け取る「郵便振替払込請求書兼受領証」を必ず保管してください。種生物学シンポジウム参加申し込みフォーム入力の際に、振り込み情報が必要になります。

※ 11 月 12 日以降は、振込みを受け付けません。

● ポスター発表申し込み【11月11日(月)まで】

ポスター発表をされる方は、最初に種生物学シンポジウムへの参加を申し込んでから、ウェブサイト上の「ポスター発表登録フォーム」から発表内容を入力してください。ポスター賞の応募 (学生会員のみ) は「ポスター発表登録フォーム」よりお申し込みください。

- 発表要旨を 700 字以下で用意してください。
- ポスターは A0 縦サイズで作成してください。展示ボードは横 90 cm×縦 180 cm です。
- **ポスター発表の申込者（発表者）は、2019 年度分の種生物学会会費納入済の会員に限ります。非会員の方は、事前に入会をお済ませください。**
- ポスター会場（コテージ・ヒムカ 1F ヒトツバ）の該当番号の展示ボードにポスターを掲示してください。**ポスター掲示のためのピンやテープは各自でご用意ください。**

● 家族・託児室の申し込み 【11月11日（月）まで】

ご本人が種生物シンポジウムへの参加申し込みを済ませてから、同伴する家族の宿泊や食事、託児室利用の申し込みを、ウェブサイト上の「家族・託児室申し込みフォーム」よりお申し込みください。

1. 同伴する家族の宿泊と食事

- 宿泊費：全日程参加の場合 10,000 円（1 名 1 泊朝食 5,000 円）です。ただし、未就学児のお子様は種生物学シンポジウム参加申し込みの方と添い寝で宿泊される場合、そのお子様の宿泊費は不要です。部屋割りは、相談の上で決めさせていただきます。
- 食費：全日程参加の場合 2,500 円（昼食 750 円、夕食 1,000 円）です。小学生以上は大人と同じ料金となります。
- 懇親会費：大人 1 名 6000 円、子供は 0 円です。

2. 託児室

- 託児室はシーガイアリゾート内に設置予定です。
- 開設日時と費用は次のとおりです。
 - 12月6日 19:00-20:00 (500円)
 - 12月7日 8:30-12:00 (1,500円), 13:00-18:00 (1,500円)
 - 12月8日 8:30-12:00 (1,500円), 12:50-15:40 (1,000円)
- ※ 保険料：1日 50円/子供（託児室にお子様を3日間預ける場合：50円×3日で150円）
- シンポジウム実行委員会 (ssb2019miyazaki@gmail.com) から利用に関するメールをお送りすることがあります。

3. 支払い

- 家族の宿泊や食事の費用の支払いは、事前振込みでも、当日受付でも可能です。当日支払いの場合は、お釣りができないようにご注意ください。託児室利用費用の支払いは、種生物学シンポジウム当日受付でお願いします。
- 事前に振り込む場合は、上記口座（4 ページを参照）にご送金下さい。振込後に受け取る「郵便振込請求書兼受領証」を必ず保管してください。申し込みを行う際に、振込み情報が必要になります。

● 会場・アクセス

会場

コテージ・ヒムカ 〒880-8545 宮崎県宮崎市山崎町浜山

<https://seagaia.co.jp/hotel/ch>

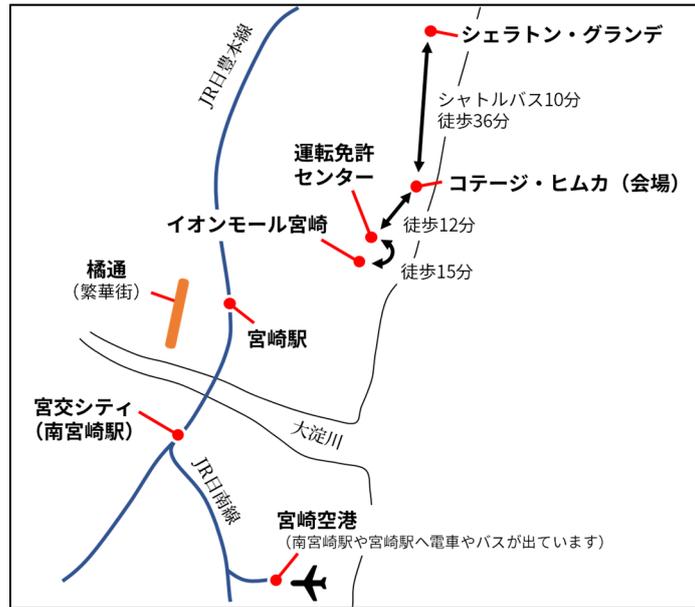
アクセス

公共交通機関をご利用の場合（バス時刻表はウェブサイトの「交通案内」をご覧ください）

1. 市内中心部（宮交シティ、橋通）からシェラトン・グランデまでバスで約 30 分、料金は 510 円です。シェラトン・グランデからコテージ・ヒムカまでシャトルバス（無料）で約 10 分、徒歩だと 36 分です。
2. 市内中心部（宮交シティ、橋通、宮崎駅）から宮崎運転免許センターまでバスで約 24 分、370 円です。宮崎運転免許センターからコテージ・ヒムカまで徒歩で約 12 分です。
3. 宮崎駅東口からイオンモール宮崎まではバスで約 15 分、220 円です。1 時間に 3-4 本と頻繁に往復します。イオンモール宮崎からコテージ・ヒムカまで徒歩で約 27 分です。
4. 土日には、宮崎空港から会場（コテージ前）までのバスが運行します。2019 年 8 月現在の料金は片道 850 円です。

タクシーをご利用の場合

宮崎空港から会場まで約 30 分、約 4800 円、宮崎駅から会場まで約 20 分、約 1600 円です。



● 問い合わせ先

西脇垂也 (宮崎大学農学部)

E-mail : ssb2019miyazaki@gmail.com, nishiwaki@cc.miyazaki-u.ac.jp (at を@に置き換えて下さい)

Tel : 0985-58-7789 (研究室直通)

<https://sites.google.com/view/sssb2019symposium51>

第 50 回 種生物学シンポジウム (東京) の記録

2018 年 12 月 7 日 (金) ~9 日 (日) 大学セミナーハウス

プレシンポジウム

可知直毅 (首都大/元会長) 再訪: 一回繁殖型草本の生活史戦略~これまでの種生物学シンポジウムを振り返りつつ~

片岡奨励賞受賞講演会

坂田ゆず (秋田県大) 外来植物の植食者に対する抵抗性の進化動態

中濱直之 (東大・院・総合文化) 半自然草原性絶滅危惧種の歴史と保全-標本の遺伝情報を用いた新たなアプローチ-

実行委員会企画ミニシンポジウム「種生物学における次世代シーケンサーの利用」 企画者: 陶山佳久 (東北大)・伊藤元己 (東大)

陶山佳久 (東北大) MIG-seq とマルチプレックス DNA バーコーディングによる分子系統・集団遺伝解析

工藤洋 (京大) フィールド・トランスクリプトミクス/エビゲノミクス: 分子フェノロジーにみる植物の長期環境応答

伊津野彩子 (森林総研) 一種で多様な生態ニッチを優占するハワイフトモモの全ゲノム解析

和文誌編集委員会企画シンポジウム「種が生まれるとき一種分化における適応と隔離の意義を探る」 企画者: 阪口翔太 (京大)・川北 篤 (東大)

阪口翔太 (京大) アキノキリンソウ群における平行的な生態的多様化

松林圭 (九大) テントウムシの交雑を介した平行的な生態的種分化

北野潤 (国立遺伝研) トゲウオにおける種分化機構

竹中將起 (信大) ガガンボカゲロウから紐解く集団の隔離と種分化へのプロセス

柿嶋聡 (科博) 周期の一斉開花植物の生活史進化と生殖隔離

野村康之 (京大) チガヤの 2 生態型間の雑種形成がもたらす劇的な開花期シフト

三村真紀子 (玉川大) キイチゴ属における種分化と二次接触のゲノム解析

ポスター発表

本庄三恵 (京大・生態研)・永野惇 (京大・生態研/龍谷大・農)・川越哲博・杉阪次郎 (京大・生態研)・榮村奈緒子 (京大・生態研/鹿児島大・農)・神谷麻梨 (京大・生態研/龍谷大・農)・工藤洋 (京大・生態研) 季節環境がもたらすウイルス-宿主の長期共存機構

木村彰宏・池田紘士 (弘前大) 最終氷期後の分布拡大によってブナ林の樹上性昆虫に生じた遺伝子浸透

松本哲也・宮崎祐子 (岡山大・院・環境生命)・末吉昌宏 (森林総研・九州)・千田喜博 (比和自然科学博)・廣部宗 (岡山大・院・環境生命) 分布域が重複するテンナンショウ 2 種における受粉前生殖隔離 **【種生物学会ポスター賞】**

佐藤安弘 (さきがけ・龍谷大)・清水 (稲継) 理恵・山崎美紗子・清水健太郎 (チューリッヒ大)・永野惇 (龍谷大・農) 植物防御の連合効果を考慮したゲノムワイド関連解析

廣瀬航洋・江川信・市野隆雄 (信大・理・生物) ウツボグサにおける花形態の標高・地域間変異は遺伝的分化を伴うか?

小川唯菜・三宅崇 (岐阜大・教育) 報酬の無いシランにどうして昆虫は騙されるのか

坂田ゆず・蒔田明史 (秋田県大) スズタケの種子散布前の種子被害率の経年変化と種子食性昆虫相の集団間比較

村田怜 (山形大・院・理工)・橋本靖 (帯広畜産大・畜産)・山岸洋貴 (弘前大・白神)・横山潤・富松裕 (山形大・理) 夏緑樹林における植物群集とアーバスキュラー菌根菌の安定同位体分析

小林峻 (琉球大・理)・Stephan W. Gale (KFBG)・傳田哲郎・伊澤雅子 (琉球大・理) 同所的に生育するトビカズラ属 2 種の送粉様式

服部正道・川窪伸光 (岐阜大・院・自然科学技術研究科) ヤブツバキの花弁の足場機能の把握

大河将寛・石崎惇・佐々木佳音・坂田 ゆず (秋田県大・環境) 多雪地域の溪流沿いに生育するトガクシヨウマの繁殖生態の解明

小沼拓矢 (東北大・農)・内山憲太郎 (森林総研)・陶山佳久 (東北大・農) MIG-seq 法を用いた分子系統地理学的解析による未知のスキ地域在来系統の発見

三木田涼佳・大原雅 (北大・院・環境科学) クローナル植物スズランの繁殖特性-種子繁殖とクローン成長の寄与に関する集団間変異

相田大輔・大原雅 (北大・院・環境科学) 日本産エンレイソウ属植物における種分化過程の全容解明

酒井智彬・北山穂高・堂園いくみ (学芸大・教育・環境教育) ヤマトシジミは外来種オッタチカタバミとカタバミ属の雑種を食草として利用できるのか?

梅川健人 (北大・院・環境科学)・若菜勇 (釧路国際ウェットランドセンター阿寒湖沼群・マリモ研)・大原雅 (北大・院・環境科学) 阿寒湖のマリモにおける生育形と繁殖様式の対応関係

鈴木優之・堂園いくみ (学芸大・教育・生物) 盗蜜によるツリフネソウの繁殖適応度への影響

新田梢 (横国大・教育/東大・総合文化)・岩田健志 (横国大・教育)・倉田薫子 (横国大・教育) ミズヒキ *Persicaria filiformis* における葉の模様の変異: 神奈川県内の分布状況

牛久由夏・石川直子・中浜直之・倉島治 (東大・院・総合文化)・陶山佳久 (東北大・院・農)・伊藤元己 (東大・院・総合文化)

ニュージーランドのキク科 *Celmisia* 属における MIG-seq を用いた系統解析

渡部真子・鈴木陽花 (学芸大・院・環境科学)・別宮有紀子 (都留文科大)・堂園いくみ (学芸大・院・環境科学) 雌性両全性株カワラナデシコの性比に影響する要因

柴田あかり・工藤岳 (北大・環境) マルハナバチの訪花パターンは何によって決まるのか? -開花量と種間作用

桑田明尚 (東京農大・院・農学研究)・福永健司・橘隆一 (東京農大・地域環境) ジベレリン酸処理に対するクマシデ属 2 種の休眠打破に及ぼす効果

沖本知央 (東京農大・農学)・福永健司・橘隆一 (東京農大・地域環境) イロハモミジ種子の成熟過程と発芽能力および休眠との関係

小林慧人 (京大・農)・武田博清 (同志社大・理工)・近藤陽 (同志社大・理工)・梅村光俊 (森林総研・北海道)・北山兼弘 (京大・農)・小野田雄介 (京大・農) タケ類ハチクの生活史: 栄養成長期および一斉開花・更新期における地上部の動態
塚原一颯・土田浩治・川窪伸光 (岐阜大・院・自然科学技術) アザミウマは花のクリーナー?
栄村奈緒子 (鹿児島大・農)・内貴章世 (琉大熱生研)・梶田忠 (琉大熱生研)・吉永新・高部圭司 (京大・院・農)・本庄三恵 (京大・生態研)・工藤 洋 (京大・生態研) クサトベラの種子散布に関わる果実二型をもたらし形態的差異と遺伝子基盤
山崎康平・川窪伸光 (岐阜大・院・自然科学技術) アリに対するツリフネソウ花序軸の毛の効果
佐々木駿 (山形大・院・理工)・山岸洋貴 (弘前大・白神)・大原雅 (北海道大・地球環境)・富松裕 (山形大・理) オオバナノエンレイソウにおける分布域の決定要因: 生育密度の緯度勾配と気候ニッチ, 繁殖成功率
青山悠・大島一正 (京都府立・院・生命環境) なぜ最短時間での発育は実現しないのか?: 捕食寄生者の発育時間を規定する要因の解明
中川さやか・土畑重人・井鷲裕司 (京大・院・農)・伊藤元己 (東大・院・総合文化) カワラノギク・ヤマジノギク種群における開花株ロゼットを介した部分的多回繁殖
永光輝義 (森林総研北海道) カシワとの遺伝子混合によって特徴づけられるミズナラ海岸生態型の遺伝的背景: その遺伝的背景と海岸ストレスが葉と枝の形質に与える効果
相原隆貴 (筑波大・山岳科学)・高野 (竹中) 宏平 (長野県環境保全研究所)・小林慧人 (京大・農)・尾関雅章 (長野県環境保全研究所)・松井 哲哉 (森林総研) 無居住化集落 (いわゆる廃村) におけるハチクの拡大 一人がいなくなった後の植生遷移
藤田真由・川窪伸光 (岐阜大・院・自然科学技術) 植物たちは溪流環境にどのように適応しているのか?
田路翼 (信大・院)・石本夏海・市野隆雄 (信大・理・生物) サラシナショウマにおける異なる 3 つの繁殖様式 - 送粉者環境との関連を検討する -
横井宏明・相原夏樹・三宅崇 (岐阜大・教育) クサギ属二種の同所的集団において雌ざい長が付着花粉構成に与える影響
萩原幹花・塩尻かおり (龍谷大・院・農)・石原正恵 (京都大・フィールド研)・日浦勉 (北大・フィールド研) プナの植物間コミュニケーション
甘田岳・北山兼弘・小野田雄介 (京大・農) ハワイフトモモにおける葉トライコームの適応的意義 一環境によって異なる機能 - 【種生物学会ポスター賞】
加藤禎基 (信大・院・理)・中瀬悠太・江川信・市野隆雄 (信大・理・生物) 乗鞍岳におけるアカツメクサの分布上限は主要送粉者の分布上限によって制限されるか
荒木希和子 (立命館大・生命)・永野惇 (龍谷大・農)・工藤洋 (京大・生態研) トランスクリプトームに基づく地下茎メリステムの季節変化
村中智明・本庄三恵・川越哲博 (京都大・生態研)・永野惇 (龍谷大・農学)・工藤洋 (京都大・生態研) 大量の野外 RNA-seq データから分かること: 日周変動遺伝子解析の場合
渡邊定元 (Φ森林環境研究所) 社会学的種概念から捉えたフォッサマグナ区系に生育するカンアオイ属植物の棲みわけ
都築洋一・大原雅 (北大・院・環境科学) 生育ステージ間の比較から見る個体群動態と遺伝的多様性に対する生息地の分断化の影響 一オオバナノエンレイソウの事例一

内田葉子・大原雅 (北大・院・環境科学) ゴマシジミの被食圧が異なるナガボノシロワレモコウ集団の種子生産比較
園師侑哉・塩尻かおり (龍谷大・農) 「雑草との植物間コミュニケーション」がイネの収穫量と害虫抵抗性に及ぼす影響
星野美紀・鷺尾翼・中村誠・堂園いくみ (学芸大・教育・生物) カタバミ長花柱型の繁殖特性と集団間比較
後藤可南子 (岐阜大・院・自然科学技術)・山尾僚 (弘前大・農生)・川窪伸光 (岐阜大・院・自然科学技術) アカメガシワの生長と化学・物理・生物的防御形質の時空間的变化
指村奈穂子・内貴章世・遠山弘法 (琉球大)・古本良 (林育セ) 希少樹木クサミズキ・ナガバコバンモチ・シマソケイの西表島における生育地の立地環境と林分構造
勝原光希 (神戸大・人間発達環境)・立木佑弥 (首都大・理)・入谷亮介 (UC Berkeley)・丑丸敦史 (神戸大・人間発達環境) 自殖の進化は繁殖干渉下の共存を促進するか: 個体ベースモデルを用いたシミュレーション
邑上夏菜・勝原光希・丑丸敦史 (神戸大・人間発達) 雄性両全性同株植物ツクサにおける花形態の性的二型性: 送粉プロセスに着目して
大野美涼・山尾僚 (弘前大・農生) 落葉広葉樹の冬芽の開芽に関する光受容器官の特定 一枝は光を感じているのか? - 【河野昭一ポスター賞】
宮城愛夏・渡邊謙太・善岡祐輝 (沖縄高専)・井口亮 (産総研・地質情報) 琉球列島産近縁低木 2 種の棲み分けと根圏における菌叢の多様性解析
大崎晴菜 (弘前大・農生)・千本木洋介 (南会津町役場・農林課)・坂本祥乃 ((株)野生動物保護管理事務所)・宮本留衣 ((株)エス・アイ・エイ)・田島美和 (自然公園財団・日光支部)・奥田圭 (広島修道大・人間環境)・山尾僚 (弘前大・農生) シロヨメナの生育密度がニホンジカの嗜好性に与える影響 一葉形質の違いに着目して一 【種生物学会ポスター賞】
武井理臣 (東京農大・院・農学研究)・福永健司・橘隆一 (東京農大・地域) ジベレリン酸処理、湿層処理の組合わせによるガマズミ種子の休眠打破
石崎智美 (新潟大・理)・満行知花 (九大・理)・渡邊幹男 (愛知教育大・生物) 日本産絶滅危惧食虫植物ナガバノイシモチソウの MIG-Seq 法による集団間解析
日下部智香・青山のぞみ・吉岡俊人 (福井県大・生) 一越年草生活史決定の鍵! 種子春化遺伝子の探索
久保美貴 (奈良女・院・生物)・井田崇 (奈良女・理) 花粉制限の強さがエライオソーム形成に与える影響
平岩将良・丑丸敦史 (神戸大・人間発達環境) 島嶼における送粉者相の違いがハマヒルガオの花形態に与える影響
倉田正観・三嶋ひとみ (東大・総合文化)・土松隆志 (千葉大・理)・伊藤元己 (東大・総合文化) ゲンノショウコにみられる花色多型と地理的構造の遺伝的基盤の解明
武田和也 (京大・生態研)・川北篤 (東大) 花卉表面ワックスの盗蜜アリ排除機能の検証
呉馥宇・矢原徹一 (九州大・理) To eat or not to eat? The selective foraging behavior of *Conocephalus* species under different relative humidity
高田壮則・川合由加 (北大・地球環境) ランダム行列と COMPADRE データベースを用いた一回繁殖型植物の弾性度
大西亘 (神奈川県博) 博物館で収集すべき“種生物学”的資料とは?

役員選挙の開票結果

2018年11月8日に投票を締め切り、11月13日に京都大学において開票を行った結果、下記の役員が選出されました。

種生物学会選挙管理委員会
田村 実・永益 英敏・布施 静香

総投票数91票（投票率29.1%）

（ ）内は得票数を表し、地区幹事選挙では次点の方までを示しました。選挙に関する規則により、会長、副会長、地区幹事選挙ともに、得票が同数の場合は年少者が優先されます。

1. 会長（任期2019年1月～2021年12月）

選出：陶山 佳久（83）
次点：加藤 真（3）
その他合計（4）

2. 副会長（任期2019年1月～2021年12月）

選出：西脇 亜也（45）
次点：工藤 洋（23）
加藤 真（17）
その他合計（5）

3. 地区幹事（任期2019年1月～2021年12月）

北海道・東北地区

選出：工藤 岳（9）、富松 裕（7）、山尾 僚（5）
次点：山岸 洋貴（5）

関東地区

選出：川北 篤（11）、奥山 雄大（8）、柿嶋 聡（5）、
新田 梢（4）
次点：細 将貴（4）

中部地区

選出：岡本 朋子（7）、川窪 伸光（5）、常木 静河（3）
次点：田中 健太（3）

近畿地区

選出：井鷲 裕司（10）、永野 惇（6）、布施 静香（5）
次点：岡崎 純子（5）

中国・四国・九州・沖縄地区

選出：満行（加藤）知花※（1）
次点：宮崎 祐子（1）

※ 中国・四国・九州・沖縄地区では当初、三木望さんが選出されましたが、都合により辞退されましたので、次点の満行（加藤）知花さんが選出されました。

福島県只見町ブナセンター「河野昭一先生企画展」開催記念講演会 “只見のブナ原生林は世界の宝” 参加報告

北村 系子

（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所北海道支所）

2019年6月30日、只見町ブナセンターで行われた標記講演会に行きました。只見町は山深い豪雪地にあり、昭和40年代からブナ林伐採反対運動をはじめた意識の高い町です。そして、河野昭一が世界に稀に見る多雪環境でブナをはじめとした植物に魅了された場所です。河野は只見町にブナセンターを設立して初代館長となり、亡くなるまで名誉館長として只見町のブナ林の保全に尽力しました。只見町では河野の没後2年にあたり「植物学者河野昭一の世界 その生涯と只見」と題した特別企画展を2019年4月27日から9月2日まで開催し、河野の経歴と業績を紹介しています。

この企画展に合わせた記念講演会では自然観察会と講

演会が行われました。当日は梅雨前線の影響で土砂降りでしたが、町長自ら参加してのブナ林の自然観察会に始まりました。自然観察会では現ブナセンター館長の紙谷智彦氏がブナ林管理の解説をされました。紙谷氏は2000年代に河野昭一とともに立山のブナ林調査を行い、河野より絶大な信頼を得たブナ二次林研究の第一人者でもあります。午後の講演会では、私から河野昭一がブナ林をどのような切り口で研究したのか、只見町のブナ林の価値をどのように捉えていたのか、北大時代の北限のブナの調査、長寿命である樹木集団の生活史過程と遺伝的多様性の解析、特異な環境に適応した植物集団への興味、世界でも類を見ない豪雪地只見のブナ林の価値、等々を中心に講演を行いました。

聴衆は只見町および周辺市町村の住民のみならず、おそらく首都圏からも只見のブナ林に魅了された方々が多くいらっやっていました。参加者の自然に対する理解が深く、講演後の質問がすべてのを得たものであったことは予想外の驚きでした。自然を守りたいという人々の意識の高さが只見町の自然の豊かさを保っている原動力だと感じました。

ただみ・ブナと川のミュージアムの特別企画展「植物学者 河野昭一の世界 その生涯と只見」では種生物学会員の鈴木和次郎氏によって丁寧に河野昭一の足跡がパネル展示されていました。室蘭栄高校時代から、写真、新聞記

事、研究ノート、国内外の恩師による手紙の数々を鈴木氏が時間をかけて展示を作られたことが伝わる内容でした。時間を追って河野昭一の研究の流れを見つめたのは私自身はじめてのことでした。北大から日本を飛び出して北米大陸に渡り、帰国する中で、どのように植物の種、集団、そして生活史の研究へと河野が没入していったのか、思いが巡り感動する展示でした。南方熊楠賞の受賞後、只見町で行われた最後の自然観察会での河野昭一と鈴木和次郎の笑顔は、師弟のつながりの強さを感じさせるとてもいい写真でした。



写真：左から順に「雨の中行われた自然観察会」「講演会の様子」「河野昭一先生企画展示」（只見町ブナセンター提供）

事務局からのお知らせ

ニュースレターのオンライン発行について—今号のニュースレターより、印刷体を廃止して、ウェブサイト上でオンライン発行することが幹事会において承認されました。会員の皆様には、ニュースレターの発行を電子メールによりお知らせ致します。学会からのメッセージが届かない方は、電子メールアドレスが登録・更新されておられませんので、事務局までご連絡ください。また、ニュースレターは学会ウェブサイトからもご覧いただくことができます。会費納入のお願いにつきましては、これまでと同様、郵送によりお知らせいたします。

和文誌の複写・転載にともなう著作権管理の取り扱いについて—旧和文誌が昨年よりオープンアクセス公開されるなど、和文誌を取り巻く状況が変化していることから、著作権の取り扱いを整理するとともに、以下の表のとおり一部変更することが幹事会で承認されました。今後、和文誌（電子版和文誌を除きます）に掲載されている著作物の複写・転載を希望される方は、表のようにお手続きください。ただし、著作権法で定められた例外を除きます。この内容は種生物学会のウェブサイトにも掲載しています。

(庶務幹事 富松 裕)

| | 現在の和文誌 (種生物学研究 22 号～) | 旧和文誌 (種生物学研究 1～21 号) |
|--------|--------------------------|--|
| 複写する場合 | 学術著作権協会から許諾を受けてください。 | 国立国会デジタルコレクションでオープンアクセス公開されており、自由にダウンロードが可能です。 |
| 転載する場合 | 文一総合出版から許諾を受けてください。 | 非営利目的の場合は無償で転載できます。営利目的の場合は、学術著作権協会から許諾を受けてください。 |

会計報告

2018年度一般会計 決算

期間：2018年1月1日～12月31日

| 収入の部 | 予算額 | 収入 |
|-----------|-----------|-----------|
| 会員会費 | 3,200,000 | 2,166,000 |
| 購読料 | 20,000 | 60,000 |
| バックナンバー | 10,000 | 0 |
| 著作権料 | 200,000 | 103,632 |
| PSBロイヤリティ | 500,000 | 1,086,634 |
| 超過ページ代 | 100,000 | 0 |
| その他 | 20,000 | 38,507 |
| 小計 | 4,050,000 | 3,454,773 |
| 前年度繰越金 | 5,865,362 | 5,865,362 |
| 合計 | 9,915,362 | 9,320,135 |

| 支出の部 | 予算額 | 支出 |
|-----------------------|-----------|-------------|
| 印刷費 Newsletter | 30,000 | 20,017 |
| 出版委託費 | 4,000,000 | 2,250,000 |
| PSB 2018年 Vol33.(1-4) | 3,000,000 | 2,250,000 * |
| 和文誌 2018年発行 (40号) | 1,000,000 | 0 |
| 事務費 | 180,000 | 156,689 |
| 発送費 | 50,000 | 44,440 |
| 冊子発送作業費 | 80,000 | 15,000 |
| その他 | 50,000 | 97,249 |
| 和文誌編集補助 | 20,000 | 0 |
| 英文誌編集補助 | 250,000 | 250,000 |
| シンポジウム補助金 | 100,000 | 100,000 |
| 会計監査交通費 | 10,000 | 0 |
| 学会賞 | 20,000 | 0 |
| 学会選挙費用 | 40,000 | 48,479 |
| 自然史学会連合分担金 | 20,000 | 20,000 |
| 日本分類学会連合分担金 | 10,000 | 10,000 |
| 男女共同参画連絡会分担金 | 5,000 | 5,000 |
| 第50回種生物学シンポジウム記念事業費 | 200,000 | 107,942 |
| 予備費 | 20,000 | 0 |
| 小計 | 4,905,000 | 2,968,127 |
| 次期繰越金 | 5,010,362 | 6,352,008 |
| | 9,915,362 | |

収入その他 (寄付金38500、利息7)

* 2017年Vol32-4の支払を含む

2018年度片岡基金決算

(期間：2018年1月1日～12月31日)

| 収入の部 | 収入額 |
|--------|---------|
| 利息 | 6 |
| 前年度繰越金 | 623,580 |
| 合計 | 623,586 |

| 支出の部 | 支出額 |
|--------------|---------|
| 片岡奨励賞副賞 | 100,000 |
| PSB論文賞副賞 (楯) | 25,056 |
| 郵送料 | 6,455 |
| 次年度繰越金 | 492,075 |
| 合計 | 131,511 |

会員数

(2019年8月25日現在)

| | |
|------|-----|
| 個人会員 | 323 |
| 一般会員 | 249 |
| 学生会員 | 74 |
| 機関会員 | 3 |

(会計幹事 堂園いくみ)

2019年度一般会計 予算

期間：2019年1月1日～12月31日

| 収入の部 | 予算額 |
|-----------|-----------|
| 国内会員会費 | 1,600,000 |
| 購読料 | 20,000 |
| バックナンバー | 10,000 |
| 著作権料 | 100,000 |
| PSBロイヤリティ | 500,000 |
| その他 | 20,000 |
| 小計 | 2,250,000 |
| 前年度繰越金 | 6,220,874 |
| 合計 | 8,470,874 |

| 支出の部 | 予算額 |
|------------------------|-----------|
| 印刷費 Newsletter | 30,000 |
| 出版委託費 | 2,000,000 |
| PSB 2019年 Vol.34 (1-4) | 0 |
| 和文誌 2019年 (40・41合併号) | 2,000,000 |
| 事務費 | 180,000 |
| 発送費 | 50,000 |
| 冊子発送作業費 | 80,000 |
| その他 | 50,000 |
| 和文誌編集補助 | 20,000 |
| 英文誌編集補助 | 250,000 |
| シンポジウム補助金 | 300,000 |
| 会計監査交通費 | 10,000 |
| 学会賞 | 20,000 |
| 学会選挙費用 | 0 |
| 自然史学会連合分担金 | 20,000 |
| 日本分類学会連合分担金 | 10,000 |
| 男女共同参画連絡会分担金 | 10,000 |
| 予備費 | 20,000 |
| 小計 | 2,870,000 |
| 次期繰越金 | 5,600,874 |
| 合計 | 8,470,874 |

種生物学会ニューズレター 第52号

発行 種生物学会
<http://www.speciesbiology.org/>
 編集 富松 裕 (庶務幹事)
 〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12
 山形大学理学部内 種生物学会事務局
 発行日 2019年9月27日